

2022年1月19日

報道関係者各位

新型コロナウイルス感染症の急拡大による

長崎医療圏の医療の非常事態について

長崎大学病院 病院長 中尾 一彦
長崎みなとメディカルセンター 院長 門田 淳一
日本赤十字社 長崎原爆病院 院長 谷口 英樹
済生会長崎病院 院長 衛藤 正雄

新型コロナウイルス感染症の変異株・オミクロン株による第6波によって、県内の感染状況が急速に拡大しております。すでに長崎市内の医療機関においては、コロナ病床確保のために一般病床を縮小するなど通常の診療に支障が出ており、予定の入院や手術の延期が余儀なくされています。また、沖縄県の状況を見ても、これまでの株よりも感染力が高いオミクロン株によって医療従事者の間でも感染が広がる可能性が高く、人手不足による診療制限も強く懸念されています。

まさに今、昨年1月の第3波、4月の第4波の時に続いて、**本県において3度目の医療崩壊の危機が間近に迫っている**と言えます。

1. 新型コロナウイルス感染症患者の急増

新型コロナウイルス感染者が**これまでにないスピードで急増**しております。ここ数日連続して160人以上の患者が発生しており、**直近1週間では1,000人を超える勢い**です、重症の患者はまだ出ていないものの、このまま感染者が増えれば一定数重症化する患者も発生し、その中には死亡する患者も出てくると思われます。現に、中等症の患者は増えてきており、コロナ診療を主に担当している長崎市内の4病院（長崎大学病院、長崎みなとメディカルセンター、長崎原爆病院、済生会長崎病院）においても、多くの一般病床を縮小し、看護師、医師のマンパワーをコロナ診療に注力せざるをえない状態になっております。このことから、重症、緊急など命に関わる疾患を優先的に治療し、治療を待機できる場合は、入院の延期をお願いする事態も起こっています。

2. 市民の皆さまへ

長崎医療圏においては、現在、医療崩壊の危機が間近に迫った危険な状況にあります。市民の皆さまにおかれましては、**三密回避、エアロゾル感染対策としてこまめな**

換気と不織布マスクの適切な着用、入念な手洗いや手指消毒など基本的な感染防御対策の徹底を改めてお願いいたします。それらの対策に加えて、接種券が届いた方は、速やかに3回目のワクチンを接種していただき、重症化及び発症リスクの低減に努めていただきますようお願いいたします。

皆さまの適切な行動が、長崎医療圏の医療体制の維持に繋がり、救わなければならない命を救うことにもなります。何卒ご協力よろしくようお願いいたします。

報道機関の皆様におかれましては、この4病院からのお願いにつきまして、紙面等での情報発信について、何卒ご配慮をお願い申し上げます。

この件に関する問い合わせ
長崎大学病院総務課広報 高蔵
095・819・7790